

生命科学院 アドミッション・ポリシー【修士課程】

生命科学院では、分子レベルから個体レベルにわたる高度な生命科学の知識を統一的に学ぶことができる大学院教育を提供する。このために、理学・薬学・医学・農学の領域において基礎生命科学から応用生命科学を専門とする広い分野の教員が参加することにより、基礎から応用展開までの包括的な教育を行う。

・求める学生像 ＜生命科学専攻＞

ゲノミクス・プロテオミクスを基盤に、生体分子の相互作用から種々の生命現象を包括的に理解し、さらにはそれらの応用についても思考できる人材を育成することを教育の目的としている。この理念と目標の実現に向けて次の資質と能力を持つ学生を求める。

1. 基礎生命科学のみならず、医学・薬学・獣医学・農学・水産学・生命工学等の応用生命科学の基礎を学んだうえで、さらに、生命に関する広汎でかつ深い知識と解析能力を身につけようとする学生
2. 高度先進科学研究の応用にも対応できる先端技術を自在に使いこなせる技術力を持ち、国・地方自治体等の研究教育職や民間企業の研究開発職に進もうとする学生

＜ソフトマター専攻＞

物質科学と広範な生命科学との融合研究によるソフトマター科学の発展、さらに生命体の構造と機能を物質科学の視点で理解し、それを活かした先端ソフトマターのデザインと創成、及び応用展開力が期待できる学生を求める。

1. ソフトマターに関する基礎物理、化学、生物の知識を学び、かつソフトマターに関する解析能力、及びもの作り力を身に付けようとする学生
2. 高度先進科学研究の応用にも対応できる先端技術を自在に使いこなせる技術力を持ち、研究教育職や民間企業の研究開発職に進もうとする学生

・入学前に学習しておくことが期待される内容

1. 生命科学に関する基礎学力を有すること。
2. 大学院において専門的な学術研究に従事していくため、各専門分野における基盤的な素養を修得していること。

・入学者選抜の基本方針（多角的な評価方法）

【一般選抜】

筆記試験により、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の評価を特に重視し、「理解力」についても評価する。また、口頭試問により、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」、「理解力」、「関心・意欲」、「課題発見力」、「課題解決力」を特に重視して評価を行う。併せて、成績証明書等出願書類により、これらの資質を補完して、入学者を総合的に評価して選抜する。

【外国人留学生特別選抜】

口頭試問等により、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」、「理解力」、「関心・意欲」、「課題発見力」、「課題解決力」を特に重視して評価を行う。併せて、成績証明書等出願書類により、これらの資質を補完して、入学者を総合的に評価して選抜する。

・入学者選抜の基本方針（評価方法の比重）

【修士課程】

入試区分	評価方法等	学力の3要素			理解力	関心・意欲	課題発見力	課題解決力
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度				
一般選抜	筆記試験	◎	◎		○			
	口頭試問	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	成績証明書等出願書類	総合的に判断する要素						
外国人留学生特別選抜	口頭試問等 ※1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	成績証明書等出願書類	総合的に判断する要素						

※1：Web 会議システム等により試問を行う。

（注）◎は特に重視する要素を、○は重視する要素を指す。

生命科学院 アドミッション・ポリシー【博士後期課程】

生命科学院では、分子レベルから個体レベルにわたる高度な生命科学の知識を統一的に学ぶことができる大学院教育を提供する。このために、理学・薬学・医学・農学の領域において基礎生命科学から応用生命科学を専門とする広い分野の教員が参加することにより、基礎から応用展開までの包括的な教育を行う。

・求める学生像

＜生命科学専攻＞

ゲノミクス・プロテオミクスを基盤に、生体分子の相互作用から種々の生命現象を包括的に理解し、さらにはそれらの応用についても思考できる人材を育成することを教育の目的としている。この理念と目標の実現に向けて次の資質と能力を持つ学生を求める。

分子生物学や細胞生物学といった生命体の基礎構造や基本機能の解析に関わる分野、生理学や発生生物学といったより高次の生命機能の解析に関わる分野、さらには個体の生体分子の構造と機能や、それらの機能の統合として存在する各種生命現象の共通原理と多様性を理解し、優れた考察力と解析能力を持ち、当該分野で独創性の高い研究を遂行しようとする意思を持つ学生

＜ソフトマター専攻＞

物質科学と広範な生命科学との融合研究によるソフトマター科学の発展、さらに生命体の構造と機能を物質科学の視点で理解し、それを活かした先端ソフトマターのデザインと創成、及び応用展開力が期待できる学生を求める。

ソフトマターの微視から巨視までの階層構造の解析、それに伴うダイナミックな創発機能の原理解明、それを活かした先端ソフトマターのデザインと創成など、優れた考察力と解析能力を持ち、独創性の高い研究を遂行しようとする意思を持つ学生

・入学前に学習しておくことが期待される内容

1. 生命科学に関する基礎学力を有すること。
2. 大学院において専門的な学術研究に従事していくため、各専門分野における基盤的な素養を修得していること。

・入学者選抜の基本方針（多角的な評価方法）

【一般選抜】

口頭試問により、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」、「理解力」、「関心・意欲」、「課題発見力」、「課題解決力」の評価を特に重視して行う。併せて、入学後の研究計画書、成績証明書等出願書類により、これらの資質を補完して、入学者を総合的に評価して選抜する。

【社会人特別選抜】

口頭試問により、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」、「理解力」、「関心・意欲」、「課題発見力」、「課題解決力」の評価を特に重視して行う。併せて、入学後の研究計画書、成績証明書等出願書類により、これらの資質を補完して、入学者を総合的に評価して選抜する。

【外国人留学生特別選抜】

口頭試問等により、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」、「理解力」、「関心・意欲」、「課題発見力」、「課題解決力」を特に重視して評価を行う。併せて、入学後の研究計画書、成績証明書等出願書類により、これらの資質を補完して、入学者を総合的に評価して選抜する。

・入学者選抜の基本方針（評価方法の比重）

【博士後期課程】

入試区分	評価方法等	学力の3要素			理解力	関心・意欲	課題発見力	課題解決力
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度				
一般選抜	口頭試問	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	入学後の研究計画書、成績証明書等出願書類	総合的に判断する要素						
社会人特別選抜	口頭試問	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	入学後の研究計画書、成績証明書等出願書類	総合的に判断する要素						
外国人留学生特別選抜	口頭試問等 ※1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	入学後の研究計画書、成績証明書等出願書類	総合的に判断する要素						

※1：Web 会議システム等により試問を行う。

（注）◎は特に重視する要素を、○は重視する要素を指す。

生命科学院 アドミッション・ポリシー【博士課程】

生命科学院では、分子レベルから個体レベルにわたる高度な生命科学の知識を統一的に学ぶことができる大学院教育を提供する。このために、理学・薬学・医学・農学の領域において基礎生命科学から応用生命科学を専門とする広い分野の教員が参加することにより、基礎から応用展開までの包括的な教育を行う。

・求める学生像

＜臨床薬学専攻＞

臨床研究を基盤とし先端薬物治療の開発・評価、医療システム、レギュラトリーサイエンスなどの実践的な教育を行う「臨床薬学専攻（博士課程）」では、薬系領域の社会的な広がりに対応し、疾患の分子機構解明とそれを基盤とした創薬理論・技術を身に付けるための教育を行う「生命科学専攻生命医薬科学コース（修士課程（博士前期）、博士課程（博士後期）」との有機的連携により、臨床の現場で生じた解決すべき研究課題をいち早く発見し基礎薬科学領域の理論や技術によって解決する能力・技術を兼ね備えた医療・臨床薬学研究者・技術者の養成を目指している。この理念と目標の実現にむけて以下の資質と能力をもつ学生を求める。

最先端の創薬・医療薬科学を学びつつ、それらの成果を臨床の現場に実践的にフィードフォワードできる優れた実験能力と解析能力を身に付けた指導的医療従事者になろうとする学生

・入学前に学習しておくことが期待される内容

1. 薬学・生命科学に関する基礎学力を有すること。
2. 大学院において専門的な学術研究に従事していくため、各専門分野における基盤的な素養を修得していること。

・入学者選抜の基本方針（多角的な評価方法）

【一般選抜】

筆記試験により、「思考力・判断力・表現力」及び「理解力」の評価を特に重視し、「知識・技能」についても評価する。また、口頭試問により、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」、「理解力」、「関心・意欲」、「課題発見力」、「課題解決力」を特に重視して評価を行う。併せて、入学後の研究計画書、成績証明書等出願書類により、これらの資質を補完して、入学者を総合的に評価して選抜する。

【社会人特別選抜】

口頭試問により、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」、「理解力」、「関心・意欲」、「課題発見力」、「課題解決力」の評価を特に重視して行う。併せて、入学後の研究計画書、成績証明書等出願書類により、これらの資質を補完して、入学者を総合的に評価して選抜する。

【外国人留学生特別選抜】

口頭試問等により、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」、「理解力」、「関心・意欲」、「課題発見力」、「課題解決力」を特に重視して評価を行う。併せて、入学後の研究計画書、成績証明書等出願書類により、これらの資質を補完して、入学者を総合的に評価して選抜する。

・入学者選抜の基本方針（評価方法の比重）

【博士課程】

入試区分	評価方法等	学力の3要素			理解力	関心・意欲	課題発見力	課題解決力
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度				
一般選抜	筆記試験	○	◎		◎			
	口頭試問	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	入学後の研究計画書、成績証明書等出願書類	総合的に判断する要素						
社会人特別選抜	口頭試問	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	入学後の研究計画書、成績証明書等出願書類	総合的に判断する要素						
外国人留学生特別選抜	口頭試問等 ※1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	入学後の研究計画書、成績証明書等出願書類	総合的に判断する要素						

※1：Web 会議システム等により試問を行う。

（注）◎は特に重視する要素を、○は重視する要素を指す。